

第 74 回 GAORA 番組審議会記録(2021 年 9 月開催)

第 74 回番組審議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による開催としました。今回は、『佐渡裕となみきのゴルフ虎の穴』について審議を行い、委員の皆様から次のようなご意見をいただきました。

番組審議

<番組概要>

世界的指揮者であり、「一万人の第九」でも指揮を務める佐渡裕と、男子シニアプロの水巻善典・室田淳・加瀬秀樹らによる本格ラウンドレッスン番組。YouTube で人気のゴルフタレント・なみきがMCを務め、レッスンあり、トークあり、音楽もありと内容盛りだくさん。

<委員長総括>

■本番組に対しては、すべての委員から好意的なコメントが寄せられている。まずその第一は、本番組の主演である佐渡裕氏に対するものである。これらのコメントは、佐渡裕氏への、そして本番組の企画に対する積極的な評価の表れである。そして第二は、佐渡裕氏をコーチする三人のシニアプロに対するものであり、MC としてのなみき氏起用に対しても高く評価するコメントがみられた。

また、非常に重要な点であると考えるが、三人のプロの改善へのアドバイスはきわめて論理的であり、そのアドバイスに従ってプレーすることが、確実に良い結果に結びついていくことは、ゴルフのもつ「科学性」を強く感じさせるものであった。ゴルフのもつ「論理性」や「科学性」を視聴者にみせていくことで、新たな切り口からゴルフの魅力を伝え、競技人口の増加に寄与するものではないかと感じる。

さらに、冒頭のドローン映像からコースがどんな意図をもってデザインされているのかを視覚的に感じることができ、ゴルフというスポーツの奥深い魅力を一層強く感じるようになった。

今後もスポーツ専門 CS チャンネルとして、より良い番組が制作されることを強く望んでいる。

<審議意見>委員の主な意見は次の通り。

■佐渡裕さんが、謙虚に真摯にゴルフと向き合っている姿が大変ほほえましく、好感を持って番組を見た。世界を舞台に活躍する指揮者の姿とはまた異なった顔が垣間見られるのは、視聴者にとって嬉しいものだ。なみきさんもゴルフタレントというだけあって、流れを邪魔することなく、出るところ、引くところのバランスを意識して上手く進行していると思う。悪い意味ではなく、「楽に見られる」という事は、この種のゴルフ番組にとってとても大事なことだ。水巻、室田、加瀬の 3 人のプロの個性がそれぞれ出ていて良かった。

これはこれでいいのだが、たとえば、一人のプロに限定して番組構成をするというやり方もあるのではないか。資料には「レッスンあり」、「トークあり」、「音楽あり」とあったが、BGM 以外には音楽要素はさほどなかったように思う。何かしら、指揮者・佐渡裕の横顔が感じられる部分がもう少しあってもいいかもしれない。

「楽に見られる」と記したが、若者にとってはどうだろう。新聞では、ゴルフ人口がピークの 1992 年から 6 割も減少していると報じられていたが、そんな状況を打破するため、裾野を広げるためには、もう少し「若さ」を意識することも必要な時であるとも思う。

■スポーツチャンネルでスポーツ以外の文化のリーダーをフィーチャーすることは、チャレンジングで、いいハーモニーを生み出した番組であったと思う。

ゴルフ番組に関心のない私にとって、「佐渡裕」が出ていなければ大変苦痛な視聴となったかもしれない。ところが、指揮者佐渡がゴルフをしているのでどう音楽と絡めるのかとみているうちに、ゴルフの解説も簡潔・的確で、「苦痛」なく見ることができた。「やる気」、「見る気」にさせる編集であったと思う。その理由の一つとして、プロたちが三人とも、佐渡裕に対するリスペクトがあるのか、アドバイスが手短で的確、さらに時に視聴者受けを狙っての素人ジョークもなく、楽器の演奏指導にも似て惹きつけられた。二つ目として、なみきさんもゴルフタレントと名乗るだけのことがあって、ゴルフに対して「まっすぐ」な感じで好感が持てた。変に女子アシスタント感を出す人もいる中で、この起用は当たっていると感じた。さらに、佐渡裕にちなんで、音楽トークをはさんだのも、私にとってはありがたく、興味深いものであった。また、効果音にクラシック音楽を多用していたが、クラシック好きの私にとっては、これを徹底してくれると番組の特徴がさらに出るのではとないか。

■まず驚いたのは指揮者の佐渡裕。レッスンプロの資格を持ち、ベストスコア 73 の腕前は予想外であった。そして、ドローンでのコース紹介は映像も綺麗で番組に厚みが出たと思う。また、連続する番組でゲストがプロという企画も面白いところ。ゴルフタレントのなみきも、女性特有のビジュアルに頼り過ぎることも出過ぎることもなく、この番組が真正面からゴルフに取り組んでいる事が伺えた。多くのアマチュアゴルファーが悩んでいるグリーン周りからのロブショット、フェースの開き、飛距離アップ等をプロのアドバイスで成功するまでチャレンジする映像はまさしく「虎の穴」。非力な女性がプロのワンポイントレッスンで目標を達成する企画は非常に分かりやすく視聴者が満足する条件を揃えていた。

ドローン映像、シニアプロの人選、異色と思われた佐渡裕、なみき。何気ない取り合わせに見えたが、終わってみると非常にバランスのとれたキャスティングだと思った。番組の随所にちりばめられたクラシック音楽も自然で映像と一致していた。唯一、残念だったのは佐渡氏と水巻、加瀬プロとの会話で「指揮棒を振れなくなったことがあった」、「自分の CD は聴かない」の後が続かず中途半端になった事。理由を聞いて欲しかった。

今回の番組は、盛り沢山の内容にもかかわらず、進行に余裕がありテンポも良く非常に見やすかった。流れのいい映像はこうもすっきり視聴できるのかと感心した。登場するそれぞれが役割をしっかりと果たし、主張しすぎることなく調和がとれていた。こうした番組制作の積み重ねが視聴者の信頼につながっていくと思う。良いハーモニーだった。

■開始早々、指揮棒を振っておられる時の表情とは全く違う、心の底からゴルフがお好きだという思いが伝わってきた。ゲストプロとの間で交わされる「ゴルフと指揮の共通点」が所々出てきて興味深かったので、この切り口を続けていけばと思えた。

また、ラウンド中に行われる佐渡さんへアドバイスやレッスンコーナーは、主に中上級者にちょうど良いレベルだと思われた。なみきさんのコーナーでは、主に初心者、また中級レベルの方にとってもう一度基礎を見直すためにもとても分かりやすかった。

希望する改善点としては、①コンサート中の厳しい表情からは想像もできない佐渡さんの様々な表情やエピソードが引き出せていたので、コンサート前の緊張をほぐす手段やオーケストラをまとめる

大変さ、一万人の第九のエピソードなどをゴルフに絡めてはどうか。②佐渡さんと言えば第九のイメージが強いので、佐渡さんのショットの後で使っている音楽をベートーヴェンの第九の中からセレクトしてはどうか。③「ゲストプロとの対戦」ならば 1 ストロークのハンディをつけるなど、どちらが勝つかドキドキする展開があっても良かったのではないか。

いずれにしても、今回はあの佐渡裕さんのギャップに大変驚き、楽しませてもらえた。もともとゴルフを通して佐渡さんのお話を伺いたいと感じる素敵な番組であった。

■番組を見て、ゴルフの難しさ、奥深さ、面白さを知りました。ゴルフ場は人工的に作り出したものだが、ゴルフは、雨、風、傾斜、土や芝の状態などさまざまなコンディションが影響するダイナミックでもおもしろいスポーツだと感じた。その瞬間のコンディションを総合的に分析して捉える力、どのクラブを使い、どういう打ち方をするかを決める判断力、決断力、そしてその通り動く身体をもつこと、これらがすべて備わってはじめてよいプレーができるのだ、ということがよく分かった。

出演した 3 人のプロは、とても分かりやすいアドバイスで、アマチュアもすぐに取り入れることのできる内容であった。そして、そのアドバイス通りにすると、本当にいいショットになるのが気持ちのいいものであり、今すぐゴルフの練習を始めたくなった。

これまで、このようなゴルフ番組をしっかりとみることはなかったが、今回とてもおもしろいということを知ることができた。

■通した視聴で感じたことは、番組資料では中・上級者をターゲットにした番組とのことであったが、初心者でも問題なく参考になる内容であった。水巻プロのシリーズでは、佐渡裕さんが指揮者であることから、指揮棒の握り方を例えにグリップの持ち方をうまく表現されていた。また、ゴルフは肯定の気持ちのスポーツなので、バンカーも怖がらずに気持ちの持ち方について大変参考になった。室田プロのシリーズでは、飛ばし方、雨でのスイング、雨でのバンカーの打ち方など技術的な点が参考になった。また、ハワイでのエピソードなどを交えながらの構成となっていて楽しく視聴できた。加瀬プロのシリーズでは、下半身を動かさない、ボールの左を見るなどパットの打ち方が参考になる内容であった。なみきさんのコーナーは、もう少し時間をとって良いのではないか。

今回の番組は、ラウンドプレーをしながら起こりうるシチュエーションでの技術指導であったので、一般ゴルファーには大変参考になる番組であった。また、佐渡裕さんの冠番組で、バックミュージックはクラシックを使うことで趣を感じる事が出来た。

GAORA では、これらの貴重なご意見を、これからもより良い番組をお届けしていくために大いに活用させていただきます。

[審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、山本泰博委員（以上 7 名）

以上